

第三章 研究開発の経緯と内容

A スーパーサイエンスハイスクール文化講演会

(1) 研究開発の課題（研究概要）

卓越した業績を残した科学者による講演会を実施して、生徒の意識・意欲の向上に役立つようとするのが本事業の目的である。また、地域の中学校の生徒・教員の代表者や高校教員が参加することで、一宮高校SSHについての地域理解を促進することも目的としている。

(2) 研究開発の経緯

生徒アンケートで今回の講師に講演をお願いしたいとする要望があり、数年前から依頼を続けていた。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

生徒の視野を広げるとともに科学への憧れや意欲・関心を高めることができる。

イ 研究の内容・方法

対象	本校	生徒	1080名	教員	50名
	中学校	生徒	46名	教員	16名
	連携校	教員	11名	保護者	96名

日時場所 6月9日(木) 一宮市民会館大ホール

実施内容

講演 演題 「宇宙に終わりはあるか」

講師 東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構長 村山斉先生

内容 「宇宙はどこまで分かっているのか」、「今後どうなっていくのか」について、これまでの研究成果をもとに分かりやすく解説して頂きました。特に、「今後、どのように調べていくのか」についてのお話からは、先生の情熱がひしひしと伝わってきました。宇宙という大きくて捉えるのが難しそうな対象に対しても、高い精度で観測を行うことや論理的な思考を尽くして研究を進めることが基本であることが良く分かりました。また、講演会後には、村山先生と直接話をしたい生徒が集まり、熱心な質疑応答が行われました。

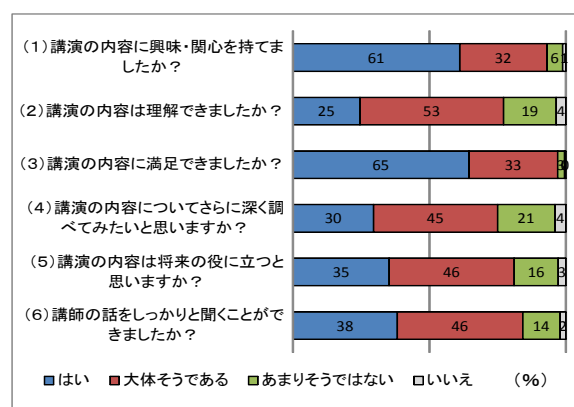


講演会の様子

ウ 検証（成果と反省）



懇談会の質疑応答の様子



生徒の感想から

・美しい星空を目の当たりにする度に将来は宇宙に携わる仕事に就きたいという思いが強まります。そこで、どのように携わるのかという問題が解決できずにいたところ、今回の講演会のおかげで自分の進むべき道が拓けたような気がしました。

最先端の物理学に関する高度な内容の講演であったが、講師のプレゼンテーション力が高かったために、生徒は興味・関心を持ってよく聞き満足度も高かったことが分かる。